



読字故原田 観

No. 621

2010/11/ 15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0033 東京都文京区
西神田1-4-1 東小学会ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒703-8236
岡山市東区3-8-30 514
TEL:086(272-3010)
郵便振替11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8014
倉敷市連島中央1-8-4
(宮地町)
TEL/FAX:086(446-2711)

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rzhong.web.infoseek.co.jp
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp



日中友好協会創立 60 周年記念岡山集会

矢崎さんの話に感動して

自分で感じ、周りに流されずに

日中友好協会岡山支部中国語講座 講師 馬 小菲



留学が決まった時には素直にうれしかったです。

いざ来てみると、身近な方々に触れてみて、私の中の日本観が変わりました。鬼とやらがうじゃうじゃいる」のではなく、私に優しくしてくれた人がたくさんいた。

岡山の空港に着いたばかりで、心細かった私にジューズと手作りクッキーを渡してくれた先生がいました。貧血で街で倒れた時、タクシーで病院まで送ってくれた親切な人がいました。ひたひたにあってた時、追いかけて靴を取り返してくれた勇敢な学生もいました。風邪で寝込んだ時、日中の講座で一緒に中国語を勉強している方々が家にまで見舞に来てくれました……

知っている方、知らない方、たくさんの方々に助けられたからこそ、今の自分がいる。

先入観で人や物事を判断するのではなく、何事も自分で考え、自分で感じたものが一番心に響くのだと思う。

「一个巴掌拍不响」
日中友好協会創立 60 周年記念岡山集会に参加しました。矢崎さんの話は心に響くものがたくさんありました。私は高校を卒業してから日本に来ました。日本への留学が決まった時に、爺ちゃん、婆ちゃんに反対していました。つらい時期を経験してきたからだと思えます。私も正直、日本に対してあまりいい印象を持てなかった。ですが、外国に行ってみると、この気持ちが強かったから、日本

何年前かに、中国の CCTV で放送された「大國崛起」というドキュメンタリ番組が反響を呼びました。私もそれに感動した一人です。内容はこういうものかという、世界の大國の興亡を題材に、各國の經濟成長などを紹介したものです。その中に、ポルトガル、スペイン、オランダ、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、アメリカに並んで、日本も紹介されていました。

他の國で、經濟大國の日本が取り上げられるのは何の不思議もないかもしれません。が、過去、中国に対して侵略の歴史を持つ日本が取り上げられるというそのこと自体が中国にとつて、大きな変化だったかもしれない。その上、日本に関しては、明治維新や戦後の所得倍増計画など、驚異的な經濟成長を遂げた大國として紹介され、侵略戦争などについては、解説なしのわずかに二、三分間の映像だけでした。日本にいる留学生の一人、誰よりも日中の友好を願っている私たちにとつて、感動的なものでした。お互いにいい方向に向かっていると心のどこかで安堵した気持ちもありました。

私は中国語の授業で、この番組をみんなに紹介しました。お互いの良い面を見ないといけないということをみんなに伝えたかったからです。最近、ニュースで中国が出ない

日がない。先日、母から、日本もデモしているよね、大丈夫？安全なの？」と心配の電話が掛つてきました。確かに、親にとつては兩國の關係の前に、子供の安全が一番の気掛かりかもしれません。

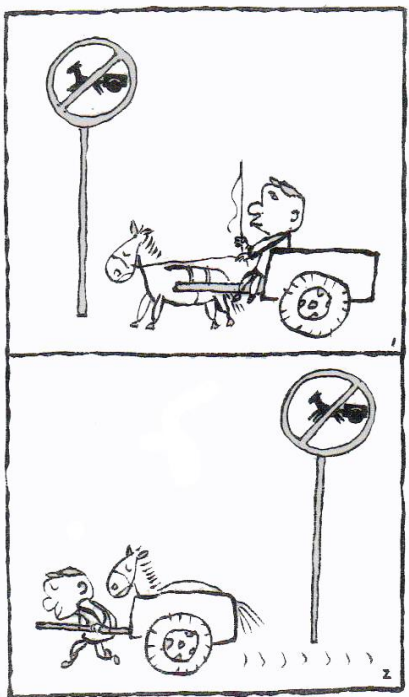
去る 8 月、日中の中国語講座のみなさんと内モンゴル旅行をしてきました。その時、みなさんが私の親族と何日も一緒に食事したり、買い物したりしました。言葉の壁があつたものの、お互いの気持はちゃんと通じていました。日本に戻ってから、母の最初の電話は私の安否ではな

第 80 回日中文化講座

「いまの中国をどう見るかー映画・漫画を通してー」

石子順氏 講演・27

かという、馬を馬車に乗せて自分が馬車を引っ張っている。この漫画のタイトルが上



徐鹏飞 《上有政策 下有对策》
上：对策あり 下：对策なし

には政策あり、下には対策あり。すごく意味深長な、庶民のしたたかさです。

おじさんの目の位置もそうですが、馬の目がすましていて、すまして荷馬車に乗っている。漫画の力なんです。ね、たった 1 本の線で、目の表情、顔の表情を描くことができるというのはユーモアのセンスですね。この徐鵬飛という人は漫画を投稿して、吉林省の新聞に載って、それが評判になって 5、6 年たったから、辺境地域からその新聞社に編集者として採用されたんです。それからさらに数年間彼は中央の方へせせと投稿したんですね、10 年ぐらいたつたら、彼はとうとう北京の人民日報に引き抜かれたんです。漫画 1 本で、辺境から地方都市、地方都市から首都の最高の新聞に引き抜かれるなんて異例中の異例らしいんです。

第44回岡山県母親大会で 中国「残留日本人孤児」の 富岡義晴さんの報告

10月24日、第44回岡山県母親大会が総社市で開催されました。

午前中の第7分科会「二度と戦争を繰り返さないために」—中国 残留孤児」の問いかけけるもの—を日中友好協会が担当しました。その中で母親大会にびつたりの「母親」と題して日本語で話をした総社市在住の中国 残留日本人孤児」の「富岡義晴」さんの報告を紹介します。

西森文子

母親

皆さんこんにちは、母親大会を行なう機会に私は、懐かしい7年前に亡くなった母の事について皆さんに簡単に話しましょう。

日中戦争前に父は軍隊にいました。1945年8月12日母は姉と兄と私と子供3人を連れて中国大連港から日本へ帰りたいと思っていました。満州東北部のチャムスから4人の旅が始



左から高見さん、富岡さん、赤沢さん

まりました。戦乱時バスも自動車もほとんどありませんでした。当時、姉6歳、兄4歳、私2歳です。

チャムスから大連まで2千キロもありました。病気をもっている母の体はとても弱かったの。姉と兄の体も弱かったのですが、私だけとても元気でした。ただ私は2歳なので遠くまで歩くことが全然できず、母の背におんぶされていました。母はあらゆる苦勞をなめ尽くして、何か月間でやつと大連港までもう400キロくらいの沈陽につきました。

その時母は逃げる途中に恐怖・過勞と栄養不足で倒れました。本当に路頭に迷っていました。避難所にいた友だちは母に勧めました、「家族全員死んでしまわないために一人子供を中国において帰るのが、いちばんよい方法です、平和になったらもう一回子供を探しに来たらどうですか」と勧めました。その時李さんが避難所へ訪ね

てきてくださったって一人子供を預かると言ってくれたので、母は子供3人連れて李さんの家に行っているいると家の様子を見ました。（＊註 その時の間取り図が富岡さんの確認時に役立ちました。）

当時私は、とても元気にし、かわいしい、話すことができないし、たった2歳なので自分の母親を忘れ易いです、このような理由で私は養母の子供になりました。子供と別れた悲しみは母の心情として筆舌に尽くすことはできなかったとおもいます。母の大切な掌中の珠」が飛んで行つて、母の心に大きな穴がポツカリと空いてしまいました。母は帰国前に何回も養母の宅へ私を見に行きました。

母は帰国から何十年間にもわたって、毎日神様に私の無事を祈りました、日中友好回復後に、父母は日中友好協会や国会議員の人々に依頼しました、よかった1983年に私は父

母の手紙を受け取りました。その時私はお父さんお母さん、万歳・万歳と張り上げました、涙がとめどもなく流れました。1998年9月6日、次男と三男と私の3人で日本に一時帰国しました。大阪空港の税関を出ないうちに税関の外にいた二人の老人が私に向かって「義晴、義晴」と大きな声で呼びました。母と私は抱き合つて、私は大声で「お母さん、お母さん」と呼びました。私の生涯ではじめて母の懷に抱いてもらったと感しました。その時私の心臓は激しく躍動しました。40年ぶ

りの再会でした。その時はただひたすら母に抱かれるままになつていました。

母はあの戦乱時弱い女の一人が一人で小さな子供3人連れて中国チャムスから沈陽までの2千キロくらい非常に遠い旅だったのです。その途中金が全部悪い人に略奪されました、そのような飢餓と恐怖、病氣と闘いながらの逃避行は、男の人にはできなかつたとおもいます。

母は7年前になくなりましたが、子供を守るために、自分の命を考えず、一生涯に全部子供のことを考えていました。

私の母も母親たちの一人ですが、母親たちは生命を生み、子供を手塩にかけて育てて、偉い人や役に立つ人を世の中に送り出しました。母親たちは子供を育てるために、自分にいくらの苦勞も考えず、子供や孫の健康成長幸福の生活を考えて、死ぬまでに全部心血を注ぎ尽くし私はいつでも人類中には、一番偉大な人は「母親たち」と感じています。いつでも母親たちは、最も戦争に固く反対です。

戦争で多くの子供が亡くなりました。家族がバラバラになりました。日中戦争で多くの子供は中国残留孤児になりました。中国残留孤児たちは艱難辛苦をなめ尽くした、いつでも自分の母親に会いたいと思つています、いつでも母親の懷に抱かれたいと思つています。

戦争のことは一番悪いことです。から2度と戦争を繰り返さないで皆さんに安全幸福生活。最後に皆さんの健康と長寿をお祈りして私の話を終ります。

生きて在ることの尊さを再確認

岡山県母親大会分科会に参加して

岡山県母親大会分科会では、中国残留日本人孤児3人のみなさんの報告を聞き、あわせて中国残留日本人孤児の問いかけるもの「というレジメや、満州開拓団など当時の状況をまとめた資料をもとに小林軍治さんがお話しされました。

中国に残された方、日本に引き揚げた方、その両者がこの分科会にはおられ、そのことだけで胸がしめつけられる思いがしました。そしていざというとき、国の軍隊は国民を守らないこと、戦中・戦後も政府は国民を棄てること。そのもとの、報告者をはじめ一人ひとり名前をもつ、かけがえない多くの人々が翻弄されたこと。これらの事実は痛いほど胸につきささり、怒りと、暗く重い気持ちでいっぱいになりました。しかし、みなさんの報告や国賠訴訟、自立支援などの取り組みから、生きて在ることの尊さを再確認しました。そして、戦争をしないことは私たちの暮らしと人生を守ることであること、また国をも超えて市民同士が手をつなぎ平和を築き守る取り組みの大切さや、可能性を強く感じる事ができました。

内田みどり

九条の会第10回 憲法セミナー

核のない平和な世界と憲法9条」に参加して ①

日中岡山9条の会

真田

10月30日に島根県松江市やにびきメッセ国際会議場」で、開催されました。中国地方で始めて開かれた憲法セミナーでもあり、また、講師の高遠菜穂子さんのお話を聞きたいということで、日帰りで行ってきました。主催者側発表で、当日参加人数は500人ということでした。島根県と鳥取県の人口を合わせると、約150万人と考えて、東京で開催したとすれば5000人にあたると事務局から発言がありました。セミナーのあと、恩師である島根大学のS先生を訪ね、その話をすると、新聞を広げて今日のセミナー

次回の新聞放送作業は11月22日(月)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

和製
林内井垣
小竹竹坪三